



日本記者クラブ 記者会見

「そう遠くない日」の真意は

麻生太郎 首相

2009年6月25日

「そう遠くない日」。解散や人事について、麻生太郎首相が使ったこの表現は、メディアに何回も登場することになった。思わせぶりの発言の真意はどこにあるのか。質疑応答を読みなおすと・・・。

記者会見冒頭の政策スピーチ「私の目指す安心社会」は首相官邸ホームページに掲載されています。

(<http://www.kantei.go.jp/jp/asospeech/2009/06/25speech.html>)

「いろいろな方がいろいろなことをこの時期になるとおっしゃるものなんです」

司会(斎藤史郎・日本記者クラブ理事長) どうもありがとうございます。それでは代表質問に移りたいと思います。

田崎 それでは、当クラブの企画委員であるテレビ朝日の川村晃司と、私、時事通信の田崎史郎が代表質問をしたいと思います。

いまおっしゃったプランを実現するために、自民党の役員人事を刷新し、また、本来17閣僚であるところを15閣僚でいま進められている内閣の人事を刷新するというお考えがあるのかないのかについて、お尋ねします。

麻生首相 まず、いまこれをやらせていただいている段階で、ただいま現在、2人の閣僚を兼務していただいている。金融担当も入れたら3閣僚ということになるろうかとも存じますが、いま現在、私どもは、その人事を直ちに換えねばならん、いまこの現在、思っているわけではありません。

また、こういった計画を実行していくに当たって、それぞれの担当していただいている閣僚の方々には頑張らせていただいていると私なりに評価はいたしております。

田崎 自民党役員のほうはどうですか。

麻生首相 自民党役員のほう？ 自民党役員のほう、いろいろな方がいろいろなことをこの時期になるとおっしゃるものなんです。これはたくさん、新聞記者の方はもちろん、政治家の方を含めて、いろいろおっしゃいますので、丁寧に拝聴させていただいておる、それ以上、ちょっといまの段階でお答えのしようがありません。

「国対委員長になりたいと思って国会議員になられる方というのは、あんまり聞いたことがありません」

川村 いまの質問に関連してお聞きしますけれども……。

麻生首相 そちらも時事通信？

川村 テレビ朝日の川村です。

麻生首相 あ、テレビ朝日。

川村 そうしますと、先ほど総理は、解散の時期は、しかし、そう遠くない時期だというふうにお話しなさいましたけれども、そう遠くない時期の、解散の前までには、少なくとも閣僚、内閣改造ということのを頭の中に入れて、いま、解散の時期をにらんでいるということでしょうか。

麻生首相 そう明確に考えているわけではありませんが、解散してから内閣改造というのは、普通はないですわな。

川村 もう一点、最近、東国原宮崎県知事が、古賀選挙対策委員長にいわせれば、大変失礼な言い方のような、自民党の総裁を自分に推し立てて選挙を闘う覚悟がとおりであれば、自分は自民党の中に積極的に入っていくというような話を公言をされているわけですが、一方では、大阪府知事の橋下さんが中川秀直さんとお会いになったり、地方のそういう首長さんから自民党に対する批判が一気に噴き出しているような感があるんですが、それをどう受けとめておるのでしょうか。

麻生首相 東国原さんの話と、橋下さんの話と、同じ次元で考えたことはありません。かなり別人格の方だと思っておりますので、両方、それぞれお目にかかったことがありますので、かなり違うんじゃないかと思いますが、みんな衆議院議員になる以上、おれも総理総裁になりたいと思って、みんななられるわけですから、私は、国対委員長になりたいと思って国会議員になられる方というのは、あんまり聞いたことがありませんので、そういった意味では、大志

を抱かれるのは決して悪いことではないと思いますので、東国原の話聞いて、みんなふざけていると怒っておられる新聞記者の方とか、またその他、いろいろいらっしゃいますけれども、私は、そういう気持ちを持っておるという気持ちを、どう伝えられたか、ちょっと正直、1対1で話を聞いたわけではありませんので、いいようがありませんけれども。

「9月の10日までありますので、それまでの間、そう遠くない日」

また、いま、地方自治に関していわせていただければ、橋下知事がどういっておられるか存じませんが、今回の予算編成、補正等々含めまして、地方の自治体は、少なくとも総務大臣をしておりました2年間からかれこれ5年ぐらいたつと思いますが、今回の予算編成に関して、いま、地方分権を推進しておりますけれども、こういったものに関して、少なくとも今回の予算編成に関して、不満を聞いたことはありません。感謝は、初めてされました。大体予算編成が終わると、ぼろかすいわれるものなんですけど、今回は初めてお礼を、右代表を含めて、何でしたっけ、全国知事会市長会——地方6団体の代表の方々から6人でお礼をいわれましたので、いまのご質問ですけども、橋下さんがそう思っておられるかどうか存じませんが、直接この話を伺ったことはありませんので、ただ、私は、地方がいろいろな意味で多くのことをやりたいと思っただけでいるのは、すごくいいことなのであって、何となく指示待ち人間みたいな形の首長さんばかりだったら、その地域は残念ながら疲弊します。

そういった意味で、やれる、やれないは別にして、自分の気持ちを持っていろいろやろうとする首長さんが出てこられるというのはいいことです。それに対して、規制があるからそれができないんだ、というのであれば、規制の改革に応じましょう。予算というものが足りないのであれば、ということでもいろいろさせていただきましたが、今回、この予算をどのように使われるか、かかって首長さんの経営感覚の問題

だと思しますので、それは地方の自治体をあずかっておられる首長さんの経営責任ということにもなろうと思しますので、いろんな意見が出てくるのは、私自身は、正直いって、決して悪いことだと思いません。いいことだと思っております。

田崎 いま、人事をいま直ちに行うことはないという、「いま直ちに」といわれたのは、どれぐらいのレンジなんですか。

麻生首相 何となく政治部だなという感じがしないでもありませんけれども、どれぐらいのレンジですかという、先ほど、そう遠くない日と申しあげましたので、9月の10日までありますので、それまでの間、そう遠くない日。いろんな表現がありますので、これから先は、田崎さん、自分でしっかり取材してください。

田崎 例えば、向こう1週間のうちに改造かあるとかないか、ということは考えられるんですか。

麻生首相 いまこの場で、改造をしないといえ、すればしたでまた文句いわれるし、するといったら、またいつですか、という話なんで、それは現場の記者の話で、右代表の立場でなされるような質問とはとても思いませんけどね。

田崎 人事をやるかやらないかというのは、どういう基準というか、どういうことを考えられるわけですか。やる、やらないの判断の基準は。

麻生首相 やる、やらないの判断ですか。

田崎 ええ。

麻生首相 やる、やらないの判断というのは、この1年間、やられた方々それぞれの成果というものも考えなければいかんでしょうし、これから自由民主党がいま目指しておりますものをきちんとそういったものに体現してや

っていこう、そういう意思が明確な方、かつ能力がある、いろんなことを勘案して決めさせていただきたいと存じます。

「いよいよといった段階で天の声がおりてきて、いきなりなし、とかいうのは何回もありましたので」

田崎 そうしますと、来月の7月28日に会期が閉じるわけですけれども、それまでに、いま総理が方針として打ち出している船舶の検査、あるいは臓器移植法の改正案、公務員制度改革法案、そういったものを十分審議したうえで、必ず成立をさせる。それまでは解散ということは考えないし、ということになりますと、7月28日までに解散せずに、そのまま会期を閉じるということもお考えなんでしょうか。

麻生首相 国会の運営のことなので、正直、これは国会対策委員長とかいうレベルの話なんだと存じますが、少なくともいまの段階で、民主党なり野党第一党の対応がよくわからないんです、私らには。正直。応じますとって、いざ委員会でオーケーになり、理事会でオーケーになり、いよいよといった段階で天の声がおりてきて、いきなりなし、とかいうのは、これまでも、この数年の間に何回もありましたので。

いま、臓器移植法というものは、私はDだったんですよ。あれは、結果的にA案で衆議院を通りました。これが参議院に送られて、じゃあというのでやるかと思ったら、また別の案が出てきて、これを一から審議するといわれると、さあ、これはどれぐらいかかりますかね、と正直思っております。

また、その他の法律も、向こうさま——向こう様という表現は正しくないので、野党の対応、野党第一党の対応が、正直、私らにはよくわかりません。わからない段階で、7月28日までに確実に通していただけるかという保証があるかといえば、これまでも必ずといって、いわれましたけれども、そうならなかった例がありますので、正直申しあげて、ただ何となく審議がされないままとかいうようなことになる、

それは多くの方々の希望とか夢とかいうものを、全然別なことでつぶすことになると思いますので、私どもは野党の対応の仕方をみたくうえで検討させていただく、としか答えようがありません。

「全然感じません。考え方を勘違いされておられますよ、それは。」

田崎 では、次に、ちょっと都議選絡みの話をお聞きしたいんですけれども、都議会議員選挙。歴代の総理総裁に比べて、麻生総理は都議選に非常にコミットされているわけですね。都議選、重要ではあるんですけれども、考えてみれば、一地方の議会の選挙にそれだけコミットされる以上、その結果が出たときは当然それに見合う責任というか、を感じられるんじゃないかと思うんですけれども、いかがですか。

麻生首相 全然感じません。全然感じません。考え方を勘違いされておられますよ、それは。基本的には、都議選は全党を挙げてやるといったんだから、全党を挙げてやるなら、総裁がみずから先頭に立つのが当然じゃないですか。また、静岡県知事選挙だって、全党を挙げてやる役員会で決めてやっているんだから、先頭に立って走るのが当然なのであって、私はそれに立って、都議会候補のところの事務所を回るというのは、自由民主党総裁としての務めなのであって、都議選の結果とか、静岡県知事選の結果が、直ちにコミットした結果がどうのこうのと、全然関係ないと思います。地方選挙は地方選挙、国政選挙とは別なものだと思っております。

川村 ただ、これまでの自民党の総理総裁が東京都議会議員選挙の候補者を、かつてないほど総理は応援をされているといえますか、全事務所を回って……。

麻生首相 全候補者を回った総裁は、これまでにないと思います。

川村 ええ。それだけ力を入れているというふうに、都民及び国民はみていると思うんです。

麻生首相 ありがたいと思っています。

「想像をたくましくしていろいろやられるのは、それは皆さんの趣味の世界なのかと思いますが」

川村 そうなりますと、自民党の都連会長の石原伸晃さんも、総理がこれだけ応援をしてくれている以上、何としてでも比較第一党を取らなければいけない、そうしないと、その後の結果、取れない場合にはかなり深刻な事態になる、というような発言をされているわけですが、そのような認識において、総理も深刻な事態になると一度お答えになっていると思うんです。

麻生首相 私は、知事選挙とか、地方選挙とか、都議会議員選挙を含めて、地方選挙は地方選挙であって、それが国政に影響するとは思ったことはない、とこれまでも答えてきたと思います。

川村 都議選でどういう結果が起きるかわかりませんが、仮に比較第一党を取れなかった、さらには自公で過半数を割るような事態が生じたときに、俗にいわれている総裁選の前倒しというようなことが、大きな声として広がってくるのではないかと、というふうにするに自民党の議員の中でもいう人がいるんですが、それについては、そのときに、総理総裁として、そういう声が大きくなったときに、これまでなかった総総分離というようなこともあり得るというお立場を……。

麻生首相 仮定の問題として、頭の体操として、政治部の記者として想像をたくましくしていろいろやられるのは、それは皆さんの趣味の世界なのかと思いますが、私は、基本的には、先ほど申しあげたとおり、地方選挙の結果が総裁選前倒し、全然関係ないと思います。また、

そういったものが広がってくるという意識も、私にはありません。

田崎 でも、総理は、都議選は衆議院選につながる大事な選挙だとおっしゃっていますよね。

麻生首相 当然ですよ。

田崎 都議選での敗北は、総選挙での敗北を予感させるものになりかねないですよ。そうした場合でも、全然責任は感じられないんですか。

麻生首相 私は、東京都議会選挙とか、地方選挙、いま兵庫県の選挙もやっています。兵庫県も選挙をやっているのを忘れんでください。兵庫県も選挙をやっているんです。静岡県だけじゃありません。兵庫県、東京都、そしていま静岡県と3つで選挙をやっている。東京都は知事選挙ではありませんけれども、そういった選挙というものの結果が直ちに影響を与えてどうのこうのということにはならない、そうお答えをいたしております。

「もう一回総裁選挙を、この時期にするということは、自由民主党のイメージとしては、むしろそちらのほうがマイナスになる」

田崎 ちょっと解散総選挙の話で、先ほど遠くない時期とかおっしゃったんですけれども、いま内閣、政権は、はっきり申しあげてぼろぼろの状態だと思うんですね。不支持が支持率の3倍になって、比例代表の投票先では自民党が民主党の半分しかない。どちらが総理にふさわしいかという、麻生総理は鳩山代表に水をあけられているという状況下で、それでも総理は、みずから解散権を振るわれるおつもりですか。

麻生首相 私は昨年9月、総裁選挙というのを戦って、その総裁選挙で多数の票をいただいて、当選をさせていただきました。総裁としてその義務を実行する責任がある、私自身はそ

う思っております。

田崎 では、どういう結果になろうと、あるいはこの後どういうことになろうとも、総理ご自身があくまで解散をされると。

麻生首相 これもたびたびお答えをしていると思いますので、重ねてお聞きになるようですので、恐縮ですが、「解散はしかるべき時期に私が判断をさせていただきます」と、そう答えています。いまもそれを変えるつもりはありません。

田崎 ちょっと失礼な質問だからやめておこうと思ったんですけども、総理が解散権を振るうことと、自民党の勝敗がリンクしないとか、総理が解散をやられると、自民党にとってマイナスになりかねない状況がいま出てきているんだと思うんですね。そのときでも、総理が解散されることにこだわられるんですか。

麻生首相 私は、いまの状況で解散をしない、任期満了直前にして総裁選前倒しで変えるということによるマイナスのメリットのほうも計算をしたうえでのご質問かと思いますが、私はそれに比べれば、もう一回総裁選挙を、この時期にするということは、自由民主党のイメージとしては、むしろそちらのほうがマイナスになると私自身はそう判断しています。

田崎 総理は、ご自身で解散すれば勝てるというふうに思っているんですか。

麻生首相 私自身はもちろん、勝てる、勝たねばならぬと思っております。

「日本とアメリカの首脳が、基本的に機能を停止しているという状況は、他国に与える影響というものについて、ぜひ配慮してもらいたいといわれた」

川村 そうしますと、先ほど総理は、国民の

多くは日本政治に不満を抱いていて、信頼回復には魔法も即効薬もないんだというお話をされましたけれども、だとすれば、主権を持って国民に対する信を問うことが、早く信を問うことこそ、国民の不満、あるいは欲求に対してこたえる一番の回答になるんじゃないかと思うんですけども、その点を考えると、解散の時期はなるべく早くとか、そういう答えというのが一つ浮かんでくるんじゃないかと思うんですけど、いかがですか。

麻生首相 私は、昨年9月、同様な意識がありましたけれども、アジア、欧州会議に行ったときに、欧州のサルコジとか、いろいろな欧州主要国の首相とか大統領とか、そういう人たちと会う機会がありました。いずれもその人たちのいったのは、金融危機、当時はまだ経済危機より金融危機だっと思っていますが、金融危機の深刻さを訴えて、いま世界第一位のアメリカが大統領選挙が終わって、いまから大きく変革をする確率が高い。そのときに、第一と第二の日本とアメリカの首脳が、基本的に機能を停止しているという状況は、他国に与える影響というものについて、ぜひ配慮してもらいたいといわれたので、一国の、他国の選挙に関して介入するのは、明らかに専権事項というか、越権行為じゃありませんかと申しあげましたけれども、いろいろな国の人たちからそれをいわれますと、当時、まだ金融危機がこれだけ实体经济に大きな影響を与えるであろうということ、私はその10月の時点で予想していたわけではありませんので、その時点で、私としては多くのことを考えて、これは私が日本で新聞を読んだりしている話よりはるかに外国における実態は、経済状況は厳しい、そう判断をし、自分なりに情報を集めて、明らかに厳しい状況は日本より激しいと。

特に、金融は日本は10年前の97年のときに、いわゆるアジア金融危機というのを日本は乗り越えてきていますけれども、同じような状況がいま、ヨーロッパ、その他の国々で、欧米で起きているという実態、いま、アメリカ、イギリス、ほとんどの国が全部国有資本を入れた

んじゃないですか。いま入れていないのは、アメリカはあるかな、イギリスは全部いきましたね、少なくともそういう状況ですから、この状況の中にあっては、日本も遠からず影響が出るということは、その時点で、これは我々が想像しているより大きいなという意識がありましたので、私は、景気対策、経済対策、これに絞らねばならん、自分でそう決めて、この9カ月間、経済対策に集中してきたというのが私どものこれまでの経緯です。

これがまだ経過としては、少なくとも10、12、1、3と急激に落ちた経済指標でしたけれども、4、5、6月と指標は上がってきておりますので、それなりの底は打ちつつある。しかし、まだ弱いと思います。これをさらに進めていかなければならない、私自身はそう思っておりますが、任期満了ということになりつつありますので、その状況において、いま申しあげたようなことから、しかるべきときに判断せざるを得ない、というようにご理解いただければと存じます。

「いまこの場で安易に先にいうほど、それほど安っぽくないので」

川村 その点に関して、もう一つ、先ほど総理は小さな市場主義から決別をしたんだと。一方で、政府が全面的に出ることをちゅうちょしないというお話をされて、そうしますと、4年前の小泉郵政解散のときに、ポスターに大きく「改革をとめるな」というのが一つのポスターの売りだったわけですけど、ご自分で解散総選挙のときのポスターにおける、自分はこれだけを入れるんだという、そういうスローガンはすでにお決まりでしょうか。

麻生首相 自分なりに考えております。

川村 どういうふうな言葉を……

麻生首相 いまこの場で安易に先にいうほど、それほど安っぽくないので。自分なりに最

終的に考えて判断しますから、それは選挙のときになって、きちんと質していただきたいと存じます。

田崎 最後の質問で、都議選が終わりますと、その結果を受けて、党内で相当総理に対する批判が出てくるのが想定されるわけですね。そんな中にあっても、総理はおやめになることなく、どんな逆境下であっても解散権を振るわれる、ということによろしいんですか。

麻生首相 田崎さんの話を聞いていると、すべて都議選が負けるという前提で話をされておりますけれども、そんなつもりで自由民主党は選挙をしているわけではありません。

司会 はい、それでは、会場のほうから質問を受けたいと思います。

「バタバタ、いま、これにつくったというのは、正確な表現ではないというような感じがしました」

質問 フジテレビです。安心社会実現会議の内容を聞かせていただきまして、麻生総理がどういう国づくりをするのかというビジョンがみえたような気がするんですが、逆にいえば、なぜいまごろなのかな、という気がしてなりません。百年に一度の危機とおっしゃったときに、このピンチをチャンスに変える、どういう方向に導いていくのかということ、9カ月もたってから、選挙を前にして、バタバタとまとめられたような印象を持たざるを得なかった。

そんな中で、先ほどのお話の中で、国民の政治に対する不満、非常に高まっている。それに対して、期待に十分こたえていない自民党、麻生総理ご自身も反省しているというお言葉がありました。何を反省されているのか、その具体的中身と、それを反省して、どう変えようとしているのか、その点についてお伺いしたいと思います。

麻生首相 まず最初に、安心社会実現という

前に、少なくとも日本は、目先の金融危機、経済危機の対応に全力をあげざるを得なかった。当然のことだと思います。バタバタ倒れているんですから。雇用がどんどん解雇されているという状況にあって、少なくとも雇用調整助成金を含め、また中小企業のマルケイ融資を含め、そういった中小、小規模企業の雇用、もしくは金融、資金繰り、そういったものに当然のこととして、最初に集中するのは当たり前のことだと思います。それが、優先順位が一番なんです。それが、指標がそこそこ上向いてくる段階まで来ましたので、次の段階にやっと目が向けられるようになった。それがその背景です。

選挙が近いからバタバタと。選挙はもともと9月までには必ず解散の任期が来るわけですから、それはバタバタというより、これまで、そういったことがやりたくてもやれないような経済状況にあったんだと、私自身はそう思っております。

したがって、安心社会というものをやっけないと、目先の倒産は免れたけれども、これから先の景気というものを考え、やっぱり未来の社会というものを考えないと、これはまた先に行って、とにかく資金繰りは助かったけれども、仕事がない、また将来、どうなっていくかわからん、というのでは困りますので、そういった意味では、日本としての未来の成長戦略というものもあわせて出させていただいた、そういったところが私どもの今回、話ができあがっていった背景ですから、そういった意味で、バタバタ、いま、これにつくったというのは、正確な表現ではないというような感じがしました。

もう一点、何でしたっけ？

質問 反省、何を反省されているのか。

「テレビだとすぐ話を切られますからね。あなたのいつものあれで。ねえ」

麻生首相 私どもの反省すべきところは、やっぱりいままでと同様に、経済改革という名で、我々はいろいろな意味での規制の緩和という

のを大幅にやらさせていただきました。そういった中で、銀行をみたら、かつての名前が出ていますという銀行は、三菱以外、いま、なくなっただけじゃないですかね。ほとんどの大都市銀行は、大幅な勢いでUFJとかなんとかいろいろな名前が変わったんだと思いますが、そういったのは一つの例ですが、規制の緩和、ビッグバン、いろいろありましたけれども、結果として、いま日本の銀行は、世界の欧米先進国の中で、今回の金融危機の中にあって、唯一政府資本を投入する必要がない銀行に生まれ変わったんですよ。不良資産も全部きちんと対応している。そういった世界で羽ばたく都市銀行というのは、アメリカにも、イギリスにもないんだと、私自身はそういうぐあいに理解をしております。そういった意味では、それなりの改革というものは、成功した、私はその点は高く評価されなければおかしいと思います。

しかし同時に……

質問 私の質問は、麻生総理が、政治の不信を高めたことについて、ご自身がどういう反省をされたかを聞いているんです。

麻生首相 ……それによって、同時に……ちょっと前例をいいたいんだよ。悪いところだけいわれても、同時にちょっときちんとした評価もしていただかんと話が偏りますから、こういったときにはきちんと申しあげないといかんと。テレビじゃないんだから、いま、パッと、こうやって話しているんだから……

質問 テレビですよ。

麻生首相 テレビだとすぐ話を切られますからね。あなたのいつものあれで。ねえ。大体数分で切らないとだめでしょうけど、いま、そう切られる必要ないんだから。だからそういった意味で、話もたまには聞いていただかんといいかん。

きちんとした成果というものもありますが、かわら、いわゆる規制の緩和の結果、いろいろなところではころびが出てきたんだというこ

とを、私はずうっと予算委員会でも申しあげてきました。中福祉・中負担というけれども、いま、中福祉の部分がほころんできているのではありませんか。そういったところにワーキングプアとか、子どもの貧困とか、いろんなところに問題が起きてきているのではないか。そういったところに対して、我々はきちんと対応をしてきていなかったのではないか。

その反省に立って、今回の予算に当たっても、そういった部分の予算というものは子どもに対する、母子家庭に対する、そういったものをきちんとやっていかねばならん、そう思って、これまで予算を編成しておりますので、従来の予算ですと、補正予算を例に引けば、普通ですと大体5割が公共事業、今回は公共事業はたしか16%ぐらいだと思いますので、その他のものは、いま申しあげたような、反省のうえに立って、そういった部分に手厚く対応させていただいていると思っております。

「支持率はかつては一ケタでしたから、そういった意味では、それから30%ぐらい上がりましたので、上がったリ下がったりするものだと」

質問 テレビ朝日です。支持率が20%を切って10%台に突入していることが多いわけですがけれども、よく、支持率について一喜一憂はしないとか、それに左右されないということコメントされていますけれども、国民から見ると、一憂ということは、それはちゃんとやってほしいという気持ちがあると思うんですけども、ご自身として、どうしてここまで支持率が下がっているとお思いか。

もう一つは、消費税率を引き上げるといっていますけれども、明確に選挙のときにマニフェストに書いて、どれぐらい引き上げるとか、そういうことを明確にいわないと、また信じられない面もあるわけですがけれども、そこらあたりいかがでしょうか。

麻生首相 まず最初の一喜一憂の話ですがけれども、支持率はかつては一ケタでしたから、

そういった意味では、それから30%ぐらい上がりましたので、上がったリ下がったりするものだと基本的にはそう思っております。だから一喜一憂しない、と申しあげております。

したがって、いまの点の最初の点でいけば、僕はそれがどうして上がったリ下がったりするかというのは、それは皆さん方のほうが詳しいのであって、私自身のほうは、その対象になっているんですが、少なくとも、これは支持率というのは、私に対する批判ですから、私自身が謙虚に受けとめにやいかんとこなんだと思っております。

ただ、私は基本的には経済対策、これ一本でこの9カ月間やってきましたので、その政策というものがわかっていただけになるようにする。これ以外に、支持率、そういったものに関していわせていただければ、私のやってきた政策はどう理解をしていただけるかだと思っております。おかげ様で指標が上がってきましたので、その意味では一つの流れだと思っております。

もう一つ何でしたっけ？

質問 消費税をマニフェストに書くのか。

麻生首相 はい？

質問 消費税の税率を含めて、きちっとマニフェストにお書きになるか。

「経済がいまこうなっているときに税を上げる人はいませんから」

麻生首相 ああ、消費税の話ですがけれども、この消費税の話につきましては、すでに法律に書いてあります。法律に書いてあるというのをご存じかと思いますが、法律にきちんと書いてありますので、我々は3年後、経済の回復、もしくは好転を、確認を待ってというように、ちょっと正確な表現は忘れましたがけれども、経済がいまこうなっているときに税を上げる人はいませんから、景気がある程度よくなってくるという前提に立って、景気がよくなってきた段

階で消費税というものを、社会保障の増大というものが、ことし8,000億、来年は約1兆円ぐらいの社会保障というものの経費が伸びるんだと思います。それをこのままずっと借金、借金で置いておけば、確実に後の世代にはそれが負担として残ります。

したがって、給付と負担というものを考えたときには、少なくとも我々は、後の世代にそういった借金を積み残していくのではなく、我々ができる限り、できる範囲で、きちんと対応すべき、私は基本的にそう思います。

したがって、いまの段階で消費税というものは、これは高齢者に限らず、広く薄い税金になります。こういったものを上げさせていただいて、それを社会保障といわれる、さっきいった医療・年金・介護、いろんな表現がありますけれども、そういった社会保障関係というものに、それを重点的に使わせていただく。まあ、福祉目的税とか、いろんな表現がありますけれども、そういった形で使わせていただくということでご理解を得たいものだと思っております。で、それをずっと申しあげてきております。10月30日にたしか申しあげたんだと思っております。

「毎日、ぶら下がっておいて、また同じところで、こんなところにも立つから」

質問 朝日新聞です。先ほど、国会の対応のところで、総理、野党の対応がよくわからないというふうにおっしゃいましたが、北朝鮮の制裁に関連する貨物検査の法案は、これはまだ国会にも提出されてないと思うんです。制裁論議は日本がある意味リードしてきた部分もあるので、これはまず法案を提出して、少なくとも与党が多数を握っている衆議院までは通すところまでいかない、野党の対応がよくわからないというふうな論理といたしますか、あれはなかなか通らないのではないかなというふうに感じるんですけれども、その辺はどういうふうにお考えなのか。

もう一点ですが、先ほど、改造と党役員人事のところで、改造については考えてないという

ふうに明確に否定されていましたが、党役員人事については、丁寧に拝聴させていただいていると、多少、ちょっといい振りが違って、気になるんですけれども。

麻生首相 これはあまり気にしないほうがいいですよ。(笑)

質問 その2点、教えていただきたい。

麻生首相 朝日新聞らしくてわかりやすいですけれども、いまのところ、あまり気にしないほうがいい。同じ表現使うのもいかなものかなと。毎日、ぶら下がっておいて、また同じところで、こんなところにも立つから、目立ちたがり屋かと思ったり、いろいろしましたけれども、まあそんな話は別にして、いまの最初の話でいわせていただくと、この対処法案というものは、船舶に関する話ですが、これは海上保安庁がするのか、また海上自衛隊がやるのかというところは、意見の分かれているところで、これは日本では海上保安庁というものでやるべきだという意見も、自民党の中にもあります。しかし、海外をみますと、これは海軍が主にやっておられるというのが実態なんだと思います。そういう意味では、海上保安庁がやるのか、海上自衛隊がやるのかというのは、これは党内に限らず、いろんなところで意見が分かれているところが現実だと思います。

ソマリア沖を思い出してもらおうとわかんと思いますが、あれは海上自衛隊の船に、海上保安庁の職員が乗り込んで、いま、あのソマリア沖で仕事をしてもらっているというのが現状です。そういったやり方がいいのか、正直、これは意見が分かれるところで、いまの段階でこの話を早急にまとめることができるか否かというのは、いま、党内でも議論をされております。

「どす黒いまでの孤独は最初から最後までずっと続いているものだと思います」

司会 時間がそろそろ参りましたけれども、

最後の1問、どうでしょうか。

質問 心境を一つお伺いしたいんですけれども……

麻生首相 どの人です？

質問 毎日新聞です。

麻生首相 はい。

質問 先ほどのお話は非常に機能する政府と消費者行政、それから責任というのは非常に重要なポイントで、ぜひやっていただきたいというふうに思うんですが、その意欲もすごくきょうはみられたのでありがたいと思いましたが、先ほども出ましたけれども、実際の内閣の支持率とか、それから自民党内で、「大政奉還せよ」とか、そういう声が出てくる。実際に政策を実現していくそのパワーの基盤と、麻生さんのいまの方向性と、あまりにも落差が激しいと我々は思うんですよ。それについて、どう思われているのか。これはあくまでもジョークとして聞き流してほしいんですけれども、安心を実現するためには、むしろ麻生政権をかえたほうがいいのかというような声まで実は出ている中で、麻生総理は、以前、私は「どす黒いまでの孤独に耐えてやるのが総理の仕事だ」とおっしゃっていた。そのどす黒いまでの孤独というのはまだ続いているんですか。

麻生首相 あの一、最後の質問でいいのね、どす黒い孤独というのは、最初から最後までそうだと思いますが。どす黒いまでの孤独に対する質問なんでしょう、いまのは？ はい、どす黒いまでの孤独は最初から最後までずっと続いているものだと思いますが、これはどなたがなられても、皆、同じような状況じゃないでしょうか。支持率が上がったから孤独じゃなくなるなんてことはないと思います。

質問 お答えが非常にそっけないので、もう一問だけ質問します。これは政策の質問です。先

ほどのお話の中では、外交安保問題があまりなかったんですね。

麻生首相 だって、安心社会実現の話をしてるんだから。きょう、的を絞っているから。外交問題は、5日後か何かにやることになっていきますので。そこに来ていて聞いていただければよろしいと思いますが。

質問 その中で、いまの北朝鮮問題に、船舶検査、その他に対応しなきゃいけないんですが、もっと別の次元で、核の傘の問題、アメリカの核の傘を、日本としてどう活用していくのかという問題があると思うんですね。先日、米韓首脳会談で、拡大抑止ということで、それを文書化してオープンにすることによって、抑止していくという流れが出てきました。麻生総理も、2月にオバマさんに会われたときに、そういう話をされたという話も聞いているんですが、その辺の事実関係と、今後、どうされていくのか、非常に重要な話だと思うのでお聞きします。

麻生首相 党首討論並みに話がバラバラ散りますと、ちょっと話として説明をしないと、きょうはこれがなかった、あれがなかったといわれても、なかなか全部が全部30分でしゃべることは無理です。

そのうえで、いまの安全保障の話が出ましたけれども、これは基本的には、日本の場合は日米安全保障条約によって、日本の防衛の部分で、核の部分、核の抑止力の話につきましては、これは基本的にアメリカとの関係で同盟ができあがっております。ご存じのとおり、1951年、安保条約ができてこの方、その後、安保改定が行われた後もずっとその状況が続いております。

今回、北朝鮮による核実験が終わって、オバマ大統領から電話があったときも、核の抑止力については、我々は100%日本の日米安全保障条約を履行する、これは最初にあの人がいった言葉だと思いますが、そういう話は文書にするまでもなく、日米間には確立したものがあ、そういうようにご理解していただいて結構

だと存じます。

司会 それでは時間になりました。この辺で本日の麻生総理の会見を終わりたいと思います。記者会見をしていただく前に、麻生総理に揮毫していただきました。その言葉は、いまいろんな議論がありましたけれども、「安心と責任」ということで書いていただきました。どうもありがとうございました。(拍手)

(文責・編集部)